

霊山の歴史を歩く

(1) 霊山の名前の由来

むかし、はがきのあて名に「霊前町」と書かれていやな思いをしたことがあった。村の名前は「霊山」であった。「れいざん」と読まず、「りょうぜん」と読む。それは、霊山が「霊鷲山(りょうじゅせん)」の省略語だからである。インドの霊鷲山は釈迦が法華経、無量寿経を説いたところで、釈迦常住の浄土とされる。現在でも仏教関係者が訪れるところである。漢字の読み方は漢音と呉音とあるけれども、仏教関係は呉音で読むという。だから「リョウセン(濁ってゼン)」となる。



霊山全景＝伊達市霊山町

霊山の名前はお寺に多く見られる。四国八十八カ所巡礼の一番札所、霊山寺(徳島県)は有名だが、ほかにも、霊山という名前を持つお寺は全国に現在二十四カ所あるという。平安時代、霊山の山頂に霊山寺が建立されて霊山という名前がついていったと思われる。それ以前は「忘れずの山(不忘山)」と呼ばれていたというが、確証はない。

それにしても、先祖の人々は山を神として敬(うやま)っていた。次回はそのことに触れたい。
(福島市在住 郷土史家 菅野 家弘)

里山ギャラリーで「山岳パノラマ写真展」始まる

りょうぜん里山がっこう校舎2階の里山ギャラリーで、写真家で登山家の佐藤章さん(54歳)＝二本松市在住＝の山岳パノラマ写真展『きらめきの瞬間(とき)』が開かれている。写真展開催がきっかけになって、山岳撮影旅行の講師役の依頼が舞い込むなど反響がひろがっている。

佐藤さんは仙台市出身。特殊な「パノラマカメラ」に出会って以来、その魅力に取りつかれた。桧枝岐村(福島県)、立山(富山県)や白馬(長野県)の山小屋や観光施設で勤務するかたわら、山岳風景の写真を撮り続けていた。プロのカメラマンとして福島県や関西電力などの依頼で観光ポスター、パンフレット、カレンダー向け写真も数多く手がけている。

仙台市や桧枝岐村、長野県のギャラリーなどで写真展を開催してきた佐藤さんだが、県内での単独写真展は初めてとなる。今回の写真展では平成11年ごろまでの山岳パノラマ写真の作品約30点ほか、福島空港開港ポスター用の作品(コンペ最優秀作)、長野パラリンピック公式パンフレットなど数多くの作品も展示、紹介している。9月5日まで。



アイス販売始めました

